

どうしよう、部屋の中。

有限会社キーパーズ 代表 吉田太一さん(46歳)

遺品整理のプロに聞きました。



よしだ・たいいち
1964年大阪府生まれ。高校卒業後、職を転々とし、92年、引っ越し屋を開業。遺品整理のサポートを手がけたことをきっかけに、2002年、日本初の遺品整理会社「キーパーズ」を設立。著書に「遺品整理屋は見た!」(扶桑社)など。

2002年、日本初の遺品整理会社キーパーズを立ち上げた吉田太一さん。現在、年間で取り扱う遺品整理は1500件ほど。そのうち200~300件は孤立死(いわゆる、孤独死のこと)をした方の遺族からの依頼だそうです。

まま放つておかれる遺族だけではなくて、周りの人にも迷惑をかけることになります。顔の色が変色して、血液の腐敗からはじまって内臓も腐り、体内で硫化水素が発生し、3日もすれば虫がわいて臭いがしあげます。遺族はもちろん周囲に住む人に精神的ショックを与えますし、腐敗した遺体は室内にシミを残し、清掃費用もかかりますし、住居としての価値も低下



遺品整理前の故人の部屋。暮らしがそのまま残されていて、故人がひょこっと帰ってきそうです。



遺品整理後。がらんとした部屋からは故人の痕跡がまったく感じられません。

させます。仮に看取られることがなく逝ったとしても、24時間以内に見つけてもらえるような人との関係を生前からつくつておいてほしいと思います。

大切なのは、日頃から積極的に人とのつながりをつくろうと行動することです。誰かの死後、すぐに発見しててくれる人ができます。

1. 身近に知り合い、友人をつくる。

毎日顔を合わせる近所さんに挨拶したり、週に1回は必ず会う友人をつくるなどすると、異変に気づいてくれる人ができます。

2. 整理整頓、掃除をきちんとする。

生活習慣がだらしなくなると、ほのかのこともだらしなくなります。家に友人を呼ぶなどして、こまめな整理整頓を心がけましょう。

3. 自分の寿命を10年先、20年先と仮定する。

自分の人生が残り少ないことを実感すると、やるべきことに優先順位がつき、1日を大切に生きるようになります。生活にハリが生まれます。時間を大切にすることで、積極的に行動を起こすようになり、生きる活力が出てきます。

遺品整理ってどうやるの? ~キーパーズの場合~

1 見積もり

依頼主(遺族)立会いのもと、故人の自宅へ行き、見積もりを出します。



※目安として、2DKで30~35万円程度。故人の部屋の散らかり具合、遺品の量、広さによって大きく変わります。

2 依頼

遺品整理を行う日を決めます。形見の品など、遺族に必要なものは事前に選び出しておいてもらいたい、それ以外のもの(貴金属・現金・有価証券などは除く)は、1トン1,000円でキーパーズが買取ります。

3 作業当日①梱包

依頼主立会いのもと、担当者が部屋に入り作業を行います。



4 作業当日②確認

ある程度片づいた後、畳や人形など、キーパーズ担当者が遺品として持ち帰ってはどうかと思うものを一か所に集め、依頼主に再度確認してもらいます。

5 作業当日③清掃

引っ越し退去時程度の清掃を行います。※それ以上の清掃を望む場合は別途費用がかかります。



6 合同供養

希望があれば、後日、キーパーズ社内で、僧侶を呼んで故人の品を合同で供養します。



有限会社キーパーズ

問い合わせ 0120-754-070

<http://keepers.jp>



ひとりさまでも
いいじょうぶ。

吉田太一著/ボプラ社刊
1,260円(税込)

孤立死の現場を数多く体験し、吉田さんが感じたのは、本当にひとりになってしまうことが問題であるということ。孤立死の実例から、実際にひとりにならないためのアドバイスまで、「よりよい生をまとうするため」の手引書です。

吉田さんが考える
孤立死後、すぐに発見して
もらうための対処法

1. 身近に知り合い、友人をつくる。

毎日顔を合わせる近所さんに挨拶したり、週に1回は必ず会う友人をつくるなどすると、異変に気づいてくれる人ができます。

2. 整理整頓、掃除をきちんとする。

生活習慣がだらしなくなると、ほのかのこともだらしなくなります。家に友人を呼ぶなどして、こまめな整理整頓を心がけましょう。

3. 自分の寿命を10年先、20年先と仮定する。

自分の人生が残り少ないことを実感すると、やるべきことに優先順位がつき、1日を大切に生きるようになります。生活にハリが生まれます。時間を大切にすることで、積極的に行動を起こすようになり、生きる活力が出てきます。